

平成 30 年度 全国学力学習状況調査分析
【新発寒小学校 - 国語 - 】

小学校
国語

本校の概要

【区分及び領域】

主として「知識」に関する問題(A)

「話すこと・聞くこと」

○全国平均に比べ、上回っている。

「書くこと」

▼全国平均に比べ、下回っている。

「読むこと」

○全国平均に比べ、上回っている。

「言語事項」

○全国平均に比べ、上回っている。

主として「活用」に関する問題(B)

「話すこと・聞くこと」

○全国平均に比べ、ほぼ同程度であるが、やや上回る。

「書くこと」

○全国平均に比べ、ほぼ同程度であるが、やや上回る。

「読むこと」

○全国平均に比べ、上回っている。

今回の調査における課題

●物語の構成の工夫や効果を考えて書くこと。

<場面例>

・読者が期待をもって読み進める物語にするために、構成を工夫する。

●文や文章の中で、漢字を正しく使うこと。

※今回は、以下の問題。

・せい造に必要なせつ備
・器具をしょう毒する
・品質をかん理する
・せつ極的に開発する

●推薦する理由をはっきり伝えるために、適切な内容を取り上げて詳しく書くこと。

<場面例>

・おうちの人におすすめの給食メニューを紹介する文章を書く。

改善の方向

○「現在と過去を行き来する構成」「出来事に変化を加えながら繰り返す構成」など、具体的な構成例を学んだ上で、自分の創作する物語に効果的な構成を考えさせる学習を充実させる。また、自分の物語を読み返す場を効果的に取り入れる。

○日常生活の中で適切に使うことができるようになる指導を継続していく。音や形、文脈の中での使い分けを意識するような学習を充実させていく。また、カードや短冊にして教室や部屋に掲示するなどの環境を工夫する。

<活動例>

・同じ音で読む漢字を集める。
・似た形の漢字を集める。
・間違いやすい漢字を集める。

○推薦する理由やそのよさを伝えるためには、事例を挙げて具体的に説明することや、他の物と比較して書くことが有効である。その効果を実感させるように学習を計画していく。

【新発寒小学校 - 算数 - 】

本校の概要

【区分及び領域】

主として「知識」に関する問題(A)

「数と計算」

○全国平均に比べ、上回っている。

「量と測定」

○全国平均に比べ、上回っている。

「図形」

○全国平均に比べ、上回っている。

「数量関係」

○全国平均に比べ、上回っている。

主として「活用」に関する問題(B)

「数と計算」

○全国平均に比べ、ほぼ同程度であるが、やや上回る。

「量と測定」

○全国平均に比べ、ほぼ同程度であるが、やや上回る。

「図形」

○全国平均に比べ、上回っている。

「数量関係」

○全国平均に比べ、ほぼ同程度であるが、やや上回る。

今回の調査における課題

- 1あたりの大きさを求めるための式を考えること。

<場面例>

- ・ 0.4mの重さが 60g の針金 1mの重さを求める式を考える。

- 割合（百分率）を求めることができること。

<場面例>

- ・ 会場に集まった 200 人の子どものうち 80 人が小学生だった場合、小学生は全体の何%か考える。

- 日常生活の問題の解決のために、情報を収集し、それらを表に整理して判断すること。

<場面例>

- ・ 玉入れを3分で行うために、投げる時間は何秒にするとよいか。

改善の方向

- わる数が 1 より小さい小数の場合でも、わり算が使えることを理解する学習の充実。

<活動例>

- ・ 数直線を使って求める数を理解する。
- ・ $\square \times 0.4 = 60$ と、 \square を使った式をたてて考える。
- ・ 小数を簡単な整数に置き換えて考える。

- 問題場面から基準量と比較量を正しく理解し、 $(\text{比較量}) \div (\text{基準量})$ で割合が求められるようにする学習の充実。

<活動例>

- ・ 方眼（ノートのマス目）を使って集まった人数と小学生の関係を実感させる。
- ・ 半分の 100 人が 50% であることから、割合は 50% より小さくなるという見通しをもたせる。

- 調べて分かったことはメモをし、条件に合う場合を判断させる学習の充実。児童自らが試行した結果を表に整理し比較しようとする態度を育てることが大切である。

【新発寒小学校 - 理科 - 】

小学校
理科

本校の概要

【区分及び領域】

「物質」

○全国平均に比べ、上回っている。

「エネルギー」

○全国平均に比べ、上回っている。

「生命」

○全国平均に比べ、上回っている。

「地球」

○全国平均に比べ、ほぼ同程度であるが、やや上回る。

今回の調査における課題

- 複数の情報を関係付けながら、多面的に分析して考えること

<場面例>

- ・上流の空の様子と気象レーダー・川の水位の結果から考える。

- 学んだことや生活経験と、自然の現象を関連付けること。

<場面例>

- ・「水 400mL の重さは 400g」「水 400mL に 12g の食塩をとかす」という事実から、できた食塩水の重さを考える。

改善の方向

- 複数の情報を収集して子どもたち同士が共有する活動を充実させていく。また、それらの情報を関係付け、自分たちの分析が妥当かどうかを話し合う活動を充実させていく。また、天気などの変化については、時間的・空間的な広がりにも目を向けさせ、分析させていくようにする。

- 事実（分かっていること）と、分からないことをはっきりさせる話し合い活動を充実させていく。また、「水にとけた食塩」など目に見えない物は、計量器などの実験器具を用いて数値で表したり、絵や図で表現したりする活動を通し、実感をともなう学習活動を計画していく。

【新発寒小学校 - 生活習慣や学習環境に関する児童質問紙調査 - 】

＜肯定的な回答割合が
全国と比べて多い質問＞

□「理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしていますか」

→日常的に、学習の中で自分の考えを相手に伝える場面を取り入れていることが読み取れます。

□「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」

□「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」

→基本的な生活習慣が定着している子の多い状況が見られます。各御家庭での声掛けや関わりの成果とも言えます。

□「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」

□「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか」

□「家で予習・復習やテスト環境勉強などの自主学習において、教科書を使いながら学習していますか」

→自分なりにより良い学習方法確立し、家でも自主的に学習する子の多い傾向が読み取れます。そうした習慣は、学習内容の定着にもつながります。

＜肯定的な回答割合が
全国と比べて少ない質問＞

□「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」

→考えを相手に伝える活動が定着しているため、今後は話し合ったことで、新たな発見があったり、自分の考えに自信をもったり、成長を感じたりするように関わっていくことが大切です。

□「今住んでいる地域の行事に参加していますか」

□「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」

□「地域の大人（学校や塾・習い事の先生を除く）に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか」

→自分たちの住んでいる地域に更に関心をもてるように、「生活科」や「総合的な学習の時間（きらめきタイム）」などで、地域に目を向けたり、地域のよさや特徴に気付かせたりする工夫が考えられます。また、積極的に地域の行事への参加を促したり、地域の保護者が子どもたちに関わる機会をつくったりすることが大切です。

子どもの成長は、基本的な生活習慣の上に成り立ちます。そして、学力向上のためには、この基本的な生活習慣の定着が欠かせません。今回の調査を通して、それらの面で成果が出ていることが分かります。この機会に、家庭における生活リズムも見直し、お子さんの健全な成長につなげていきましょう。また、子どもたちが自分たちの住んでいる地域に更に関心をもつことができるように、学校と家庭（地域）が連携し子どもたちを見守っていきましょう。